

丹波でおためしテレワーク移住体験※

森下慈子さんご家族



テレワーク移住体験
キーワードは「自由」

12月26日から31日まで、自宅でWEB制作をする森下慈子さんご家族4人が「丹波でおためしテレワーク移住体験」に参加しました。プロジェクトから宿泊先や仕事場を提供し、働きながら移住体験をするものです。

子どもと一緒に体験で、場所や時間にとらわれない、自由な働き方をするご家族を紹介します。



おためしテレワーク移住体験

12月26日から31日まで、家族4人で「丹波でおためしテレワーク移住体験」という働きながらの移住体験をしました。プロジェクトから宿泊先と仕事場の提供を受け、テレワークという情報通信技術を活用した場所や時間にとらわれない働き方をしながら、移住体験をするものです。移住体験をするなら子どもと一緒に決めていたので、冬休みを利用して決行しました。2日間は、丹波少年自然の家で宿泊し、残りの3日はシェアハウス「フラワーハウス」に宿泊しました。地域で活動をする大学生と地元の人と一緒に餅つきをしたり、移住者の方と話をしたりと盛りだくさんの移住体験でした。

移住体験を申し込むきっかけ

私たちは宝塚在住のシステムエンジニアとWEBデザイナーの夫婦で、起業して自宅でWEB制作をしています。パソコンとネットがあれば仕事ができます。ならば、住む場所にとらわれず、広い田舎の家でのんびり働くことができる考えたのが移住体験をするきっかけです。

丹波市は住まいから車で1～2時間の距離。キャンプなどで訪れたことがあり、私たち家族にとって身近な田舎だったことも決め手でした。

生活と仕事が密着する暮らし

丹波を訪れ、移住者の方々に話を聞くと「生活＝仕事」になっている人が多いと感じました。興味のあることが仕事に繋がり、生活や地域のために仕事をして暮らす。会社員や自営業など色々な職の方とお会いしましたが、みなさん仕事が生活の一部。特に地域に密着した仕事スタイルは魅力的でした。

働き方とテレワーク

移住体験ができたのは、自宅でWEB制作というテレワークにぴったりの仕事をしていたからです。この働き方の最大の魅力は時間をコントロールできること。幼い子ども2人との時間を削ることなく、仕事ができるのは幸せです。家族とともに移住体験をしながら働く経験は、改めて今の生活を選んでよかったと感じさせてくれました。

テレワークは、仕事と家族との時間を両立できる選択肢の一つです。自営業者以外も、もっと増えていけばいいと思います。興味のある方は、まずは丹波市のお試し移住体験をおすすめします。

※総務省の「平成28年度ふるさとテレワーク推進事業」の採択を受けたプロジェクトです。